

12月の植物

ムシカリ（別名オオカメノキ）（レンプクソウ科）

学名：*Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.

11月の終わり、「12月の植物」何を書こうかと迷いながら、脊振山に向かった。コハウチワカエデの綺麗な紅葉がまだ見られるかもと思いながら車を走らせていると、オオカメノキの黄色い葉が目に飛び込んできた。オオカメノキというのは別名で、標準和名はムシカリ(虫狩り)というそうだ。虫が好んで食べる葉が由来だそうだが、虫に食われる前の「亀の甲羅」に似た葉からついた別名、オオカメノキ(大亀の木)の方が良く知られている。

今年の4月、脊振山で「樹木の花」をテーマに観察会を行ったが、その時、ひときわ注目を浴びていたのがこの花だ。濃い緑の丸い葉をバックに、アジサイに似た白い花がよく映える。

脊振山の山頂は標高1055m、ブナやミズナラが多い落葉樹の森だ。3月の事前調査の時は、アカガシやスギ、シキミ等いくつかの常緑樹以外は、まだ冬芽の状態で、樹皮と冬芽で木の種類を当てる「なぞなぞ」のようだった。中でも大きくて特徴のある冬芽がオオカメノキだった。最初は何の木か分からず、一緒に担当したYさん、Nさんと「なんだろうねー？」と首をひねりながら歩いた。調査終盤で「ウサギの顔」のようなスタンダードな冬芽を見つけて「これ、オオカメノキだったんだ！」と納得し、なぞなぞが解けて3人で喜んだ。葉芽だけか、花芽もあるかの違いだった。今回見たオオカメノキは、残っている黄色の葉の側に、すでに冬芽ができていた。次の春に向けて着々と準備を進めている様子に、命の巡りを感じる。

白い花、亀の甲羅のような葉、赤い実(黒く変わる)、紅葉(黄葉)、冬芽、それぞれの時期で楽しめるオオカメノキ。県内では、脊振山や多良岳など高い山でしか見られない珍しい木です。あなたも会いに行ってみませんか。

(文責 神代智子)



花



果 実



冬 芽

【参考文献】 馬場胤義 編. 1981. 佐賀県植物目録. 佐賀植物友の会 発行